

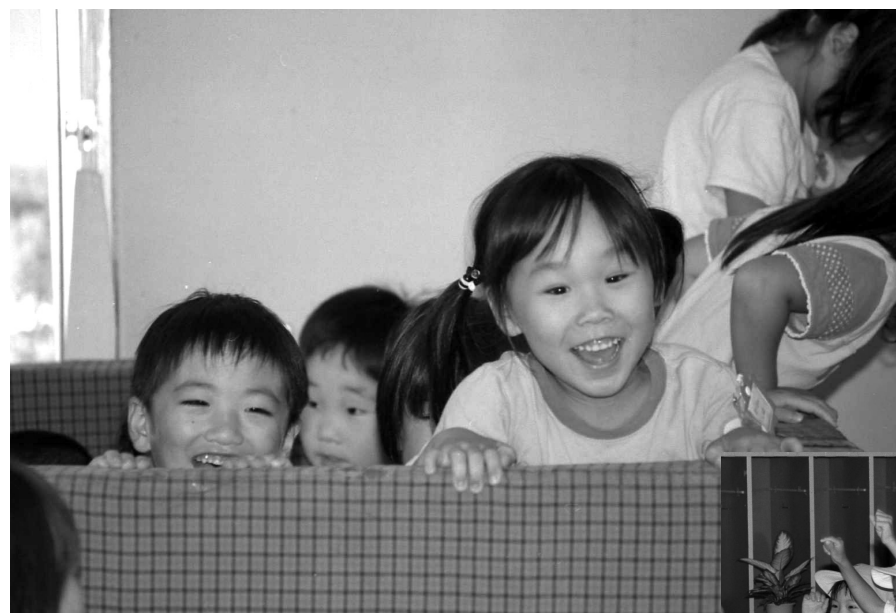
はじける こころ

vol. 14

人権の宝島：院内学級発.....	1
あいあい園.....	2
はじける笑顔：せいなん幼稚園.....	3
保育所・幼稚園交流.....	4
食教育：豊川北小学校.....	5
「ともに」ってな〜に.....	7

げんげののぺえじ

●写真募集！●子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔…などの写真をお送りください。



げんげの：「げんげ(紫雪草)」とは、れんげ草のことで、「げんげの」は、れんげ草が一面に生い茂る野原のことです。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を一面に咲かせます。また、れんげ草は、緑肥として大地を肥やします。蓮に似た小さなれんげ草を、子ども一人ひとりの尊厳に見立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました。

はじけるこころ ●みのおから世界へ！ 人権文化の花束を！

「ふもに」ってな〜に.....



かわのひでただ

夏の太陽が、カーンカンカン。みんなのオデコに、汗の玉が、ポロリ、パラリ。今日は、夏休みのプールの日です。プールのまわりで強い、強い影をつくるポプラの葉っぱが、まっ白い入道雲にむかって、グーングーン。

かおり先生が、日焼け止めクリームをぬりたくって、つば広ぼうしで、くびにタオルをまきつけて、プールのなかをにらみ、ピーツと笛をふきました。三年二組のみんなは、準備体操をブン投げて、次々とプールにドボン、ポチャン。そのなかには、いつも先生をこまらせるヤッチャンもいます。ヤッチャンの一番のともだち、ケコちゃんも、ドボン！

その後、ほうらやっぱり、ケコちゃんが思っていたとおりになりました。時間が来て、かおり先生の笛が、ピッピリピー。みんな、もう少しおそぎたいなあ顔の色で、しぶしぶプールから、ノロノロあがります。でもひとりだけ、ぜんぜん、あがることしないひとがいました。バシバシやおおよろこび顔のヤッチャンです。

◎ケコちゃん・やっぱりね。ヤッチャンがみんなといっしょにあがることあれへんもん。いつものことやもんね。

◎かおり先生・あゝあ、やっぱりヤッチャンは、ルールやぶりをするわねえ。こまった子。ともに学び、ともに生きる学校のルールがあるんだから、みんなといっしょじゃないとこまるのよね。

◎かおり先生のこまった顔を見た、ケコちゃんがつぶやきました。

「先生はこまった顔をしてるけど、ヤッチャンは、ぜんぜんこまってへんよ。ヤッチャンは、自分のルールでプールにいるだけやん。運動会のときもそうやった。みんながコースを三周走ると、ヤッチャンは、一周だけ走って、さつさと一番のハタのところにすわるんやもん。そのときも先生は、

みんなではなしあうヒント

ヤッチャンは、どうしてプールからあがらないのかな。

- ヤッチャンのルールってなんでしょう。
- かおり先生は、どうしてこまっているのでしょうか。
- ケコちゃんと、ヤッチャンは、どんなともだちなんでしょう。
- ヤッチャンは「しょうがい」といわれていますが、「しょうがい・障害」ってなんですか。
- あなたには、ヤッチャンのようなともだちがいますか。ケコちゃんのようなともだちがいますか。
- 「ともに学ぶ、ともに生きる」ってことは、どういうことなのか、先生といっしょに考えましょう。

こまった顔をしてたけど、ヤッチャンは、だれともきょうそうしてないんやもん。自分だけのルールで走ってるだけやん。そやから、いつも一番で、いつもベッタやねん。

先生は、いつも「ともに」っていうけど、「ともに」って、みんながいつもいっしょというのんとちゃうねん。ひとりひとりのルールを、ひとりひとりが大切にすることやねん。それをみんなで、いっしょにすることやうんかなあ。」

みんながいなくなったプールで、ヤッチャンは「ニコ。かおり先生がこまったちゃん顔。ケコちゃんが、

「がんばれ、がんばれ、がんばれるひとよ」

と歌いながら、ヤッチャンがプールからあがるのをまっています。セミたちもジャージャーと、やかましくなっています。

人権教育推進会議情報誌『はじけるこころ』

発行 箕面市人権教育推進会議

箕面市教育委員会

人権教育課 TEL072-724-6921 FAX072-724-6010

e-mail : eduinken@maple.city.minoh.lg.jp

平成18年（2006年）9月

人権教育推進会議委員

守婦朋子、小関麻沙好、平沢清美、河野秀忠、中嶋嘉伸、安東由紀子、松川知恵、福島全子、上田晃江、上中弘基、藤原清子、細井末子、中田和成、坂田節夫、主原照昌、倉橋利治、川上加津子、仲野公、森田雅彦、奥山勉、上西彰、栗本忠夫、前田健、中野仁司、稲野公一、若狭周二、森井國央、笹川実千代、福永茂、中村信隆、千葉亜紀子、南悦司、向井裕彦、庄司豊、塩山俊明、中澤博、津田善寿、加藤真知子、黒田正記、吉田卓司、辻広志、小谷功、谷口あや子、森和則

「はじけるこころ」は教職員・PTA運営委員に配布しています。公共施設においています。

公開ホームページ：http://www2.city.minoh.osaka.jp/EDUJINKEN/JINKEN/jinken.html

みのおから世界へ！ 人権文化の花束を！

院内学級は心のつながりづくりの学級

院内学級に取材に行ってきました。

■院内学級ってなに？
箕面市立病院の中に病气やけがで入院した児童や生徒が学校と同じように勉強できる学級（いわゆる「院内学級」）が設置されています。退院してからスムーズに元の学校に戻るよう、一人ひとりの学校に勉強の進み具合なども尋ねながら学習します。また、楽しいもの作りや季節の行事などとして、生き生きとした時間を過ごせるようにしています。

■いつからあるの？

昭和57年（1982年）に萱野小学校病弱・身体虚弱学級として設置されました。平成12年（2000年）には第五中学校病弱・身体虚弱学級として中学生も入院しても学習する場を保障できるようになりました。

■入るのは箕面市の子もだけ？

吹田や豊中、池田など市外の子どもたちも入れます。また、入級の手続きをすれば、出席扱いになります。しかし、入院期間が短い場合も多く、入級手続きをしていない小中学生も一緒に学習しています。



七夕飾りをつくりました。



パソコンで自分の学校の友だちともテレビ会議ができます。



大太鼓を使ってカミナリさんになりました。



たんぽぽ文庫の方と院内学級の先生方。たいへん明るい教室です。

箕面市立病院内の萱野小・第五中の院内学級をご存じでしょうか？入院中の子どもたちのための小さな学級です。新しくなり、明るい部屋（教室）でした。入院中の子どもたちは、家族と離れて寂しい思いをしていたり、辛い検査もさげられませんか。そんな子どもたちに院内学級の先生方は声をかけ、ベッド上で安静の子どもには、ベッドの横で話をしたり、勉強を見てくださったり……そしてもちろん、お楽しみもあります。クッキー作りやクリスマス会、そしてリハビリのお年寄りも一緒に室内運動会もあるそうです。また、インターネットで各学校とつながっていて、箕面市内ならテレビ会議も可能とのこと。体の調子を見ながら勉強ができる環境を整えてくださっています。

取材した日は、『たんぽぽ文庫』のみなさんがお話し会に来てくださっていました。みなさんは、入院している子どもたちの年齢層を聞いて本選びをしたり、ワクワク楽しくなれるように心がけてくださっているそうです。

子どもたちが入院中でも、充実した時間が過ごせることができるように、お手伝いできることがないかしらと考えてしまいました。

人権教育推進会議 堀島 全子

病气やケガのため学校や家庭から離れて入院生活を送るのは、子どもにとって辛く不安な体験であろう。箕面市立病院の院内学級では、担任の先生が、病院スタッフや外部ボランティアの人たちと協力しながら、子ども達の学力保障やこころのケアをサポートされている。

感心したのは、「子どもを元気づける」のでは

なく、「子どもが元気になる」ことを目指して関わられる姿勢だった。

個別にその子に合わせた対応ができる環境だからこそ可能なのだが、それにしても、子ども自身が主体となって病气やケガという困難な現実を乗り越え、前向きな気持ちを持てるように、周囲の大人がサポート役に徹するというのは、意外に責任と余裕を問われる仕事だと思う。

勉強に追われ人間関係にストレスを募らせる現代の子どもたち全てが心身ともに健康になるために、大人が忙しいと弁解せずに、何をするべきかというモデルを見たように思う。

人権教育推進会議 平沢清美

困ったときに気軽に相談や、手助け頂ける人や機関が多数にあり、依頼しやすいものであれば助ける、と子育て中は何度も思うことがあります。

箕面市は多種多様に相談・支援の窓口が開かれた街だと、先日、はじけるこころの取材先で改めて感じました。

健康であれば気付かずにごまかしていますが、箕面市立病院の中には院内学級という、入院中のこどもや保護者を支援する機関があります。萱野小学校、第五中学校の教員が1名ずつ配置され、就学前・中学校卒業までのこどもたちに学習やレクリエーション、地域の方々による月

に一度文庫活動などが行われています。

傷病などで病院生活が長引くこどもも保護者も気持ちがふさぎます。こどもが傷病で頑張っているのだから、と保護者も無理を重ね、互いにストレスのかかる日が続きます。そんなときにサポーターが院内にいて、日当たりのとてもよく、心の緩和を与える素敵な空間が院内にありました。このような場が箕面市内に多数増えて欲しいと強く感じました。

人権推進会議 安東由紀子

あいあい園

—箕面市障害児通園事業所—



みんなのお気に入り「タオルケットブランコ」ゆらゆら揺れるのって気持ちいいね！



機能訓練施設もたいへん充実しています。

デイリープログラム 平成18年度

保育時間	保育活動	訓練時間
9:30	検温、視診、問診 生活指導（登園準備） 自由遊び	9:40 ～ 2限 10:20
10:00	体育	
10:20	(みかんG) 設定保育 (りんごG) 設定保育	10:20 ～ 3限 11:00
11:00	↓	11:00 ～ 4限 11:40
11:40	給食 自由遊び	12:40 ～ 5限 13:20
13:00	終わりの会 生活指導（降園準備）	13:20 ～ 6限 14:00
13:20		
13:40	検温、視診、問診 生活指導（登園準備） 自由遊び	14:00 ～ 7限 14:40
14:10	設定保育（ぶどうG） ↓	
15:15	おやつ、自由遊び 終わりの会 生活指導（降園準備）	
16:00		

行事

—誕生会—（月1回）

その月の誕生児をお祝いします。

—子どもの日、七夕、クリスマス会、春の集い—

活動の中に季節の行事を取り入れて遊びます。

—園外保育—（年1回）

バスに乗り園外へ出かけ遊びます。

その他

—学習会—（月1回程度）

Dr.、各療法士、相談室、保育士などからテーマに沿った内容で話があります。（希望制）

—交流タイム—（月1回）

保護者同士の親睦を深めたり、情報交換の時間にして下さい。（希望制）

—お知らせ会—（月1回）

その月の保育内容や連絡事項等をお話します。

はじける 笑顔

「心を開く」体験劇にはじける笑顔

6月19日(月) せいなん幼稚園

昨年度「つながる」をテーマにしましたが、
今年度は「はじける」をテーマに、元気につながっていく取り組みを取材します。

せいなん幼稚園では0歳から6歳までの子どもたちとその保護者を招いて地域の子育て支援の活動をしています。今回は、6月19日(月)にNPO法人あそび環境Museumアフタフ・バーバン(アラビア語…扉を開けの意)に来てもらい親子でいっしょに劇を体験しました。

会場には熱気がムンムンで、
笑顔がはじけました。



いっしょに劇を体験



熱気ムンムンの会場

■アフタフ・バーバンについて

能勢雅子さん(アフタフ・バーバン神戸事務所)のインタビューから

「お互いの違いを認め、表現し合っている」という目的で東京の児童館の人が集まってできたNPOです。人と関わるのが苦手な人も関わる力をつけていくために、「遊び」の中で学び、共感し、笑いの中でつながっていくけるプログラムを子どもから大人まで用意しています。能勢さん自身が、震災に合い元気のなかった時期にアフタフ・バーバンのプログラムに出会い、元気をもらったことからこの活動に参加するようになったそうです。

200人の心が開かれ、

■地域の子育て支援の活動

藤原清子せいなん幼稚園長

公立幼稚園は現在市内で約530名が通っています。「子どもの思いを拾い上げ、心を育てる保育」実践しています。せいなん幼稚園は4クラス70名通っています。毎日弁当をつくったり、毎日の送り迎えがありますが、それがかえって親同士がつながりをつくるきっかけになっています。子どもをどう育てていけばよいか迷われている方も就園前から「おさるの会」(0歳〜2歳児)や「バナナ組」(3歳児)の活動(園庭開放も含め月6回)に参加いただくことで、子どもが「幼稚園に早く行きたい」と言ってくれるようになり、自然に幼稚園に溶け込んでもらっています。

■参加した保護者の声

○引越してきたとき、もみじだよりでこの活動を知りました。この活動に参加してから、子育ての心配事も、先生や他のお母さんたちに聞くことができました。

○参加しての雰囲気がとてもいい。先生も子どもも本当に楽しそうに活動しています。

○PTA活動にしても、年少組の保護者を年長組の保護者の方々が引っ張ってくれて心強い。

■「明日も来たい幼稚園にpne」

「明日も来たい幼稚園にする」この目標に向かってPTAを巻き込んで園全体がパワフルに活動しているという印象を受けました。

園の教育目標を達成するには「心を開く」「心を育てる」必要があります。『ぐうちょっばつ劇場』の観劇は、子どもたちはもちろんのこと、こどもたちのまわりの大人たちが楽しみ、心が

開放されるひとときだったのではないのでしょうか。また、まず一番に「心を開く」必要があるのは大人たちであると園長先生は感じておられるのではないかと思います。

子どもたちは、人と関わる力を遊びの中で会

得していき、言葉ではなく行動を通じて体でお互いを理解していこうとすると園長先生が言われていました。また、徒歩通園の送迎時、親子の様子や親同士のつながりなどを気をつけて見ることができ、親の孤立化なども防ぐことがで

きるとも話されました。PTA活動も活発で、親はここで人と関わる力を身につけていっているのではないかと想像しました。

人権教育推進会議委員 小関麻沙好

瀬川保育所・桜ヶ丘保育所・せいなん幼稚園・とどろみ幼稚園の交流会

6月30日(金) 桜ヶ丘保育所

同じ小学校で来年度から学ぶ仲間として交流をすること、保育士と幼稚園教諭との相互理解を進めることを目的に、箕面市内地域ごとに毎年保育所・幼稚園でおこなわれています。今回は西地域の交流会を取材しました。

西地域では2保育所・2幼稚園が合同で交流会を今年度は9回予定しています。今回2回目を桜ヶ丘保育所で室内ゲーム大会おこないました。心配した雨も降らなかったので開催できました。

●お天気が心配された梅雨の晴れ間の金曜日、桜ヶ丘保育所で開催された、月一回の5才児幼稚園・保育所交流会に行ってきました。瀬川・桜ヶ丘保育所、せいなん・とどろみ幼稚園の4ヶ所の子ども達が集まりました。

箕面市では校区ごとにこのような交流があり、幼児期の自分達が普段過ごしている場所とは違う場所に行って、また、違う先生や友だちと遊ぶのは、とても有意義だと思います。開催場所の子どもたちは、やってきたお友だちを子どもなりにもてなしているようでした。

私自身も家庭の事情で長女、長男がそれぞれ幼稚園、保育所でお世話になっていたので、懐かしい気持ちで見



手と手をつないで歌を歌いました。
小学校へ行っても仲良くしようね！



みんなで力を合わせて、青・赤のカードとなるようにカードめくりゲームをしました。

2006年度 幼保交流年間予定

(せいなん幼稚園・とどろみ幼稚園・瀬川保育所・桜ヶ丘保育所)

	4歳		5歳	
	活動内容	場所	活動内容	場所
5月			顔合わせ	せいなん幼
6月			室内遊び	桜ヶ丘
7月			水遊び、プール遊び	せいなん幼
9月			保育所見学	保育所
10月	顔合わせ	せいなん幼	運動会ごっこ	せいなん幼
11月	保育所訪問	保育所	秋の自然を感じる	瀬川北公園か止々呂渕
12月	弁当交流	せいなん幼	未定	瀬川保
1月	未定	瀬川保	正月遊び	せいなん幼
2月	未定	せいなん幼	ドッチボール	中公園



キッズクッキングすくー(前期 第3回)

6月24日(土) 10:00～

料理の技術習得は、「食の自立」につながるため、料理を楽しむ調理技術を習得するため年間6回(前後期各3回)、3年生以上の児童を対象に実施しています。



6月30日(金)「食の講演会(PTA人権講演会)」

講師 奈良女子大学名誉教授 山本公弘氏

テーマ 心を育む食事—食育の視点から—



■キッズクッキングすくーに参加して

前期3回目とあって、皆手際よく調理をしていました。メニューは「クリームシチュー」「白身魚のムニエルと野菜炒め」「メロンゼリー」。包丁でジャガイモをむく、ホワイトルーはバターと小麦粉から、ゼリーもゼラチンを溶かしてと、インスタントものでない素材の味を活かした調理法でした。参加している子どもたちは「習った献立は家庭でも試しているよ。」「料理が好きになった。」「ささがきゴボウもつくったよ(前回のメニュー)」と得意そうに話してくれました。

た時、母が作ってくれたおかゆがどんなにおいしいか、遠足の時、お弁当箱から手づかみではおぼろにぎりがどんなにおいしいか……お金では買えない親の愛情を、食を通じて味わい、実感する体験こそが子どもの心を健康に育むのだと、深く考えさせられた。そうやって育てられた子どもたちは、自分のことも他人のことも大切にしながら生きる意味を学ぶだろうし、それは有効な人権教育であると思った。人権教育推進会議 平沢清美

●

昨今よく見聞きするようになった『食育』という言葉。具体的に『食育』に取り組んでいる豊川北小学校に伺った。内科の先生を招いての講演会では、身体だけでなく、食事への配慮が精神にも影響をもたらす、という話に共感を覚えた。子どもの頃に、何を食べるか、どう食べるか、ということが、成長後の生活にも大きく影響してくる。

講師の先生の「大脳辺縁系は原始的な心である情動に關係し、矛盾を矛盾と感じず、ものごとを快・不快で判断する。人間らしい高度な心(マナー)を守る、美しく生きる、創造する等」に關与するのは、その外側にある大脳新皮質。そこを育て、健全に生きるためのスタンダードをつくるには、栄養バランスを意識した食習慣づくりが子ども時代にも不可欠。栄養的に偏った食習慣をスタンダードにして育った子どもが親になれば、次世代にもそのスタンダードが受け継がれる」というお話が印象的であった。

講演後、栄養士の先生から、「子ども自身が、栄養のある食物を知り、摂っていきけるようにする」という取り組み、調理実習を通じて親やお年寄りを始めとする方々と作っている地域の協力体制」についてのお話をうかがった。

食べ物という口から入るもの、言葉という口から出るもの、その両面から人権教育のスタンダードや習慣をつくることの重要性を改めて考えるよい機会となった。人権教育推進会議 守帰 朋子

豊川北小学校 食教育の取り組み

平成17年(2005年)に食育基本法が施行され、今年6月には食育推進基本計画が発表されて、各方面で食育が進められています。そんな中で箕面市では、早くから食教育について取り組んできました。人権教育を考えていく上で人が生きる基本は「食」であり、その大切さを子どもたちや保護者にどのよう

に伝え広めていくかは、人権教育を進めていく上で大変重要な視点です。

そこで今回は、豊川北小学校でとりくんでいる「食教育」に視点をあてて、取材をしました。

豊川北小学校では、平成17年度から2年間、独立行政法人日本スポーツ振興センターの「学校給食における学校・家庭・地域の連携推進事業」を大阪府下で1校委嘱を受けて、食教育の研究が進められています。校内では推進委員会を中心に全教職員で、校区ではPTA・地域の人々とともに校区委員会が連携して、食教育にとりくんでいます。

キャッチフレーズ

『朝食モリモリ 食べやさ～い!!』

子どもたちが朝ごはんを食べる習慣を身につけ、そして野菜が好きになってもっと食べるようになることをめざします。

【主な取り組み】

○食に関するプロジェクト

教科・総合的な学習・特別活動における食に関する指導と、食に関する講演会の実施・掲示物等による指導・キッズクッキングすくーの開催など

○家庭・地域との連携推進プロジェクト

地域向けの給食試食会(毎月実施)や、地域の農産物の成長取材や提供を受けるホリディクッキングの実施など

○家庭・地域への情報発信プロジェクト

「たべものつうしん」の発行や、ゲストティーチャーとの給食交流など

■市民委員さんの感想

豊川北小PTA人権講演会

「心を育む食事 食育の視点から」に参加して

「食育」が人権教育とどうつながるのか？

食事の大切さといえば、栄養とか健康を考えて口から入るものばかりだと思っていた私は、食育を含めた親の育て方が心の座としての脳にこんなに影響を与えるのかと驚いた。子どもが病気になる、喜んでおいしく食えることまでは、「お金で買える食」で保障できる。

豊かな日本では、学校給食も充実しているし、家庭でもほとんどの親がそれを実践していると信じているだろう。しかし、山本先生の指摘通り、脳の中でも人間らしい高度な心(マナー)を守る・美しく生きる・創造するなど)に關与する大脳新皮質は放っておいては育たない上、その発達のために必要なのは「お金で買えない食」だと気づいているだろうか。「食生活の豊かさ」と「手間をかけない食事」が背中合わせになっていることが習慣化している生活を恐ろしいと気づくだろうか。風邪の熱がやっとながって食べられるようになって

どんな相談して、幸い箕面市はいろいろな活動がありま
すから、そういうプログラムも活用して、子どもたちの
きらきらした目とはじける笑顔を大切にしていこうでは
ありませんか。 人権教育推進会議 松川 知恵

はじける
笑顔